

八田與一の福建省調査

武長 玄次郎¹

¹ 正会員 木更津高専 人文学系 (〒292-0041 千葉県木更津市清見台東 2-11-1)
E-mail: takenaga@h.kisarazu.ac.jp

台湾総督府技師八田與一は、1935年（昭和10年）に福建省主席陳儀の招きを受けて、およそ4週間当地に滞在し灌漑調査などを行った。当時日中関係は満州問題や中国国内での排日運動の高まりを受けて緊張することはあったが安定した面もあり、こうした招聘も可能であった。また、15万ヘクタールにおよぶ農地の水利を整備した大規模な施設、嘉南大圳建設の中心人物であった八田への評価が、当時国際的にも高かった事を示すものである。

八田は妻外代樹を同伴して福建に渡り人々の協力を得て調査を実施、現地だけでなく台湾総督府でも相当の評価を受けたことがわかる。本報告では、八田が調査について書いたいくつかの記録や関連の新聞記事などから、知られていないこの事実について、できる限り明らかにしようとするものである。

Key Words: Hatta Yoichi, Investigation of Fujian, Governor-General of Taiwan, Newspaper report, Relations between Japan and China

1. 招聘と調査が行われた背景

1935年（昭和10年）8月から9月にかけて、当時台湾総督府で盛んに活躍し、技術者として第一人者というべき八田與一が、福建省に招かれ州都の福州市を中心に主に水利関連の調査を行っている。本稿はこれについて考察することを目的とする。

そもそも満州事変の1931年から1945年までを15年戦争と呼ぶのは、間違いとまでは言えないがやはり疑問がある。1935年には、満州事変とそれに続く中国北部の戦乱は一旦落ち着いていた。国民党にとって満州（東北）はいずれ取り戻さねばならない地域には違いないが、主敵は共産党軍であった。蒋介石が共産党以外の中国を完全に掌握できていたわけでもない。まず国内をおさめてから日本という対処する、というのは国民党内にも異論は多くあったがこの時期の蒋政権の方針であった。翌年の1936年（昭和11年）の西安事件を経た後も、1937年（昭和12年）の日中戦争勃発以前は日本との友好も常に模索していた。これが単なる時間稼ぎか、真剣な姿勢か、今も議論が分かれ当時の日本でも蔣の真意を探るのに苦しんでいた。国民党内には蒋介石自身をはじめ知日派が多く（イコール親日派ではない、反日派も多数いた）、日本側も交渉相手を探すことが困難ではなかった。

そして当時福建省主席であった陳儀は、日本人の妻を持ち国民党政権下における知日派の代表格であると共に、常に蒋介石の忠実な部下であった。国共内戦の最終段階で、台湾で起きた二・二八事件の責任を問われることな

く浙江省主席に任命されながら、情勢の不利を悟って共産党に寝返ろうとして失敗、逮捕され台湾で処刑されるのはずっと後、戦後しばらくたった1950年のことである。福建省に台湾総督府から技術者を招致し、同じ年の10月に台北を訪れて台湾始政40周年博覧会を見学する、という彼の行動は自身の立場や思想からも当時の状況からはそれほど特異なものではなく、いずれも蒋介石の了解もしくは賛同を得ての行動であろう。陳儀は日本の植民地台湾の発展も大いに評価している。統治の責任を負っていた福建省の発展のため、台湾から有能な技術者を招聘してその助言を受けようという発想は、陳儀自身か周辺から出たのかは分からないが不自然ではない。

そして福建省は第4代総督の児玉源太郎（在任1898-1906）以来、台湾総督府があるいは対岸からの漢民族意識の波及を警戒し、あるいは政治的・経済的に勢力下に置こうと画策してきた。1898年には清国との間に福建省不割譲を取り決めた条約を締結している。何らかの形で福建省に影響力を及ぼす機会があれば総督府が逃すはずもなく、調査に協力したことは考えられる。なお、このような問題は総督府の権限内であるが、日本の中央政府がどの程度関与していたか、全く関与していなかったかはわからない。

2. 調査をめぐる

八田與一の招聘、調査について、いくつか疑問が存在する。まず、関連する公文書が一切残っていない。台湾

総督府からの出張命令書がなく、こうした場合調査が終了した後に総督府に提出されるはずの復命書、報告書の類が一切存在しない。台湾だけでなく日本全体での公文書に当時よくあったように、戦災等で失われたため、というわけではないようである。総督府の御用新聞と言われた『台湾日日新報』には昇進や給与、叙勲、出張などの総督府辞令が掲載されていたが、この調査に関係するものが全くない。今に至るまで、研究者による調査が進んでいないのは文書資料が不十分なのが多い理由かもしれない。あるいはこの調査が「15年戦争」の概念に反するため重視されないからか、東京・南京・満州・北平（北京）といった、日中関係の帰趨に重大な影響を与える地域と離れているからであろうか。

さすがというべきか、八田與一の評伝である古川勝三の『台湾を愛した日本人』、齋藤充功『日台の架け橋・百年ダムを造った男』は、いずれもこの調査について触れている。八田がこの時、妻外代樹を同伴したことにも両者とも言及している。古川本には、外代樹が調査期間の最後に陳儀夫人から布袋（人形であろう）を贈られ、外代樹が後々に至るまでこの滞在を懐かしんでいた、という記述がある。あるいはこの時、公務出張ではなく休暇を取って家族旅行の形にしたのかもしれないが、今度はなぜそうしたか、という疑問が生じる。なお、このことは調査の際に家族を連れて行くことが出来るほど、当時日本と中国の関係、台湾と福建省の関係が安定していた（と一般に認識されていた）ことが窺える。

この調査については、『台湾日日新報』が数回扱っている。台湾における技術者の代表的存在である八田が『台湾日日新報』に掲載されることは複数回あったが、写真付きで記事になったのは筆者が知る限り2回だけであり、うち1回が「督府の八田技師、福建に招かる 水利灌漑改修のため」と紹介されたこの時である（1935年8月3日）。ちなみに、もう1回は5年前の嘉南大圳建設終了時のこと（1930年8月17日）であった。

『台湾日日新報』1935年9月12日の記事は、帰国したばかりの八田に取材している。そこでは、福建省の万物は唐宋の遺物であり、現代の科学知識は極めて幼稚であると語っている。福建の関係者が知った場合問題になりそうな記事であるが、ある程度実像を反映した観察だったのであろう。なぜか、依頼されたのは水利ポンプの修理のみと語っており、技術についてはこのことしか述べていないが、もちろん仕事の内容はそれにとどまるものではなく、詳しいことを帰国後雑誌等にも書いている。八田の活動について、日本内地の新聞が扱う機会は多くなかった。そのためか、台湾ではある程度名士として知られていた八田も、内地では技術者以外には全くと言ってよいほど無名であった。この時は珍しく、朝日新聞が「福建省政府が日本人技師招聘」と彼のことを紹介して

いる（1935年8月2日）。ただし、外代樹のことは台湾・内地どちらの新聞にも触れていない。

ただ、そもそも八田がなぜ招聘されたのか、当時の報道や文献では全く触れておらずはっきりした理由は分からない。60万人が関わる15万ヘクタールの農地に豊かな水を供給し、1920年から10年かけて完成した大規模水利施設、嘉南大圳およびそこで最も重要な施設、烏山頭ダム建設の中心人物が八田であった。嘉南大圳は、日本が植民地台湾において実施したインフラ整備の代表的存在とされる。「アメリカで八田ダムと名付けられ讃えられた」という、今日いくつかの嘉南大圳関連記事で見かける記述には根拠がないが、ある程度八田が技師として国際的に知られていたことは考えられる。彼の業績を、距離的に近い福建省の人々が知り情報を収集することは、それほど困難なことではなかったはずである。最終的には主席である陳儀が、福建省における灌漑施設の改良について助言を得るのに最適な人物と見なして招くことを決めたと思われるが、何らかの形で人選に総督府が関わった可能性はあるだろう。

そして八田の調査と同じ年の10月～11月、台湾始政40周年博覧会が盛大に開催された。そして陳儀が台湾を訪問し10月21日から28日までの一週間滞在し、博覧会に出席した際は、かなりの歓迎を受けている。そして当時の台湾総督中川健蔵と日本語で会談したことが、『台湾日日新報』10月23日号において報道されている。中川はその際に八田の調査について触れ、彼から福建開発が非常に有望であると聞いたとし、必要ならば八田を再度もしくは他の技師を派遣する、と陳儀に伝えている。総督の発言から、当時台湾総督府が福建省との関係を相対的に重視していたこと、八田は技術について総督府内での影響力が大きかったことがよくわかる。総督が八田に直接意見を聞いた可能性もある。

本報告ではほとんど触れないが、中川総督の発言が影響したのか、八田による調査の後、蓬莱米の開発で有名な農学者磯永吉、八田とも親しかった総督府土木技師荒木安宅、林業の上野忠貞（総督府技師）、園芸の櫻井芳次郎（総督府中央研究所技師）が、いわば第二陣として福建に派遣されている。

3. 調査の記録

八田は調査の結果を数種類の文章にまとめている。調査を行った翌年、八田が創設と運営に関わった雑誌『台湾の水利』第6巻第1号（1936年）にこの時の調査内容「福建省管見」を発表し、ほぼ同じ内容のものを『台湾技術協会誌』第1巻第2号（1937年3月）に「福建省視察」および「福建省土地改良其の他に関する視察報告書」として掲載している。

八田の論稿は依頼された灌漑設備の調査と提言に加え、中国の政治や学校教育、友好的な雰囲気の中にも見られる排日思想についても触れている。わずかな滞在期間でありながら調査に必要な所だけでなく、教育施設など福建各地を見学したらしい。日中戦争中には数回悪口を書くことになる蒋介石についても、乱れていた中国をまとめた功績をある程度評価している。農業技術に知識がなくても八田の報告書は読んで面白い。仕事に熱心な八田のこと、期間は短いなかでも相当念入りに灌漑施設や地域の調査を行ったようである。そして、福建省は人口が多く耕地に乏しいため、省が主体で土地改良を行うべきとしている。灌漑や給水路整備などについて、例えば「東湖西湖は4米3米乃至3.5米に掘り下げ4米以上の地は4.5米以上の地は盛土耕地となすを適当とす。港道及貯水池不足の場合は厚福郷海岸に北湖を新設し貯水池を増加することを得」といったように、丁寧に数字を挙げて助言している。また、塩田や漁業・鉱業の振興、水力を利用した電力開発にも言及し、福建全体の発展を考えた提案になっている。

だが、日中両国間の戦争はもはや間近にせまっていた。盧溝橋事件は1937年7月7日に勃発した。『台湾技術協会誌』第1巻第4号（1937年8月）には、磯・荒木ら4名の福建省での調査報告が記載されていたが、雑誌発行時、すでに戦争のニュースは読者に届いていたと思われる。

日中戦争勃発翌年の1938年（昭和13年）1月、台湾日日新報社は『南支那読本』を出版、当時の総督府総務長官（総督府において総督に次ぐナンバー2の地位にある）森岡二郎および国策会社として台湾や南洋地域開発のため設立された台湾拓殖株式会社社長の加藤恭平が序文を書いている。読者に南中国の情報を提供することで日中戦争（支那事変）に貢献し、戦争終結後に予想された経済開発の参考にするための出版と思われるが、時間的余裕がなかったためか、相当にちぐはぐである。本の筆頭にある八田與一の文章は『台湾の水利』『台湾技術協会誌』とほとんど変わらず、戦争中の敵国の主要な幹部陳儀へ八田が述べた感謝の言葉がそのまま記載されている。

この『南支那読本』は、書名の通り広東や広西など福建省以外にも中国南部について読者に広い知識を提供している。執筆者には福建省での調査を行った八田以外にも磯・荒木・上野・櫻井が、おそらく調査をもとにした論稿を掲載している。その他に植物学者の田中長三郎、気象学者の白鳥勝義、鉱物学者の早坂一郎（三人はいずれも台北大学教授）、台湾の歴史や政治・社会について

の著作の多い井手季和太（総督府嘱託）がおり、それぞれの専門分野で執筆している。南支那研究所調査として、電気や商工業、小作や鉄道などについての情報も掲載されている。

4. 終わりに

この調査が行われた2年後の1937年（昭和12年）から日中両国は全面戦争をはじめ、無数の犠牲者を出すことになってしまった。当時の日中対立は根本的なものであった。どんなに中国に友好的な日本人でも中国（中華民国）は満州国を承認すべきであると考えており、どんなに日本に友好的な中国人でも、満州国など偽りであり満州は中国の一部であると考えていた。そして両国はついに全面戦争という最悪な形を見ることになった。八田は戦争中、国民の熱狂の影響を受けたものか、中国を見下して日本をひたすら賛美し、戦争を肯定する文章をいくつか書いている。

戦争中、福建省の州都福州市は日本軍が占領したが、後背地であり八田が調査をおこなった農業地帯は国民党政府の下にあった。日本側から見ると敵地であって開発や再調査は出来なかった。八田は引き続き、中国開発自体には関心を持っていたようである。1941年（昭和16年）に、公務出張で満州および中国北部の調査を行っている。その前年には『台湾技術協会誌』上で、黄河流域の開発計画などについて提言している。

国民党政権としては、「15年戦争」中に日本の台湾総督府関係者に技術関連の支援を依頼したことなど、戦争中はもちろん戦後も公にすることはできなかった。残念ながら、相当の労力と費用を費やしたに違いない調査は、全て無駄となった。

八田による報告や提案の内容が実施されていた場合、福建省は農業を大いに発展させたかもしれない。さらにこうした関係が中国の他地域にも拡大していたら日中関係は技術協力・経済開発協力を主体とする平和的な関係を築くことができたかもしれない、というのは夢に過ぎるであろうか。八田が台湾で成し遂げたことを思えば、面積广大で技術改良の余地が大きかった中国で思う存分腕を振るうことが出来れば大きな成果を挙げた可能性が高い。

日中間に当時ほんの僅かに見られた、技術と技術者がもたらした光について知ることは、決して無駄なことではないと考えられる。

(2018.4.9 受付)